

平成29年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	公明党
事 業 名	先進地視察 「すみだ地域ブランド戦略について」 「スミファ すみだファクトリーめぐりについて」 「産業観光プラザ すみだ まち処について」
事 業 区 分	①研究研修 ②調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

「ものづくり」のまちという特徴を生かした地域ブランディングにより産業や地域振興に取り組む事例として墨田区の取り組みを視察研究する。

2 実施概要

実施日時	視察先	東京都 墨田区
平成29年8月8日 9:30~12:00	担当部局	産業観光部 産業経済課

報 告 内 容	<p>1 区の概要</p> <p>○人口：267,737人（うち外国人11,800人） ○世帯数：147,184世帯 （平成29年8月1日現在）</p> <p>第2次世界大戦が終わり、焼け跡にも住宅や工場が建ち、産業のまちとして復興してきました。同28年（1953年）には工場数が戦前を上回るなど急速な経済発展のなかで、人口は、昭和38年（1963年）には32万6千人となりピークを迎えた。近年は再び増加に転じている。</p> <p>2 区の特徴</p> <p>東京スカイツリーや両国国技館があり、ものづくりのまちである。 江戸時代から職人の文化が根付いており、伝統工芸が受け継がれている。 さらに、工芸品を生み出す若手作家や新しい製品を生み出そうとする力があふれたまちである。葛飾北斎が生まれ、生涯のほとんどを墨田区内で過ごしている。</p> <p>3 視察事項について</p> <p>(1) すみだ地域ブランド戦略</p> <p>東京墨田区は大都市の利便性を備えながら、あらゆる日用品の製造現場であり、ものづくりを核としたユニークな地域活性化プロジェクトである。事業がスタートして8年目を迎え、伝統と未来が交差する取り組みが次々に生まれている。</p>
------------------	--

(2) すみだモダンブランド認証制度

ア すみだ地域ブランド価値規定(すみだモダン)に合致するクオリティが高い商品や飲食店メニューを審査の上、認証する。

イ すみだ地域ブランド価値規定(すみだモダン宣言)

- ・江戸～明治～現代のDNAを受け継いでいく。
- ・地域の文化を、次世代へ届けていく。
- ・ものづくりを通して、生活に彩を約束する。
- ・人々の交流を通して、コミュニティを育む。



ウ 認証方法

商品部門と飲食店メニュー部門別にブランド認証審査会や区民調査隊の認証審査を経て、すみだブランド推進協議会理事会が認証する。

(3) ものづくりコラボレーション

高い技術を持った墨田区内の製造企業と日本を代表するクリエイターとのコラボレーション、市場性の高い商品の開発、販路開拓のサポートを行っている。



(4) すみだモダン認証商品のパッケージや販促ツール等の改善コンサルティングを実施している。

さらに、海外市場へ進出するための調査・支援を行っている。

4 まとめ(市政に活かせること)

すみだモダンというブランド化により、デザインやコンセプトを刷新した。新たな人材(クリエイター)と職人の高い技術力とのマッチングにより、商品に新たな価値を生み出している。地域ブランドの新潮流といえる。注目すべき点は、ブランド認証のプロセスを明確にして区民との協働も図りながら認定していること。また、ブランド化は難しいとされていた飲食店メニューも認定されていることが素晴らしい。

確実に事業ベースに乗せるため、クリエイターが持っている販路も活用している。台湾など海外進出にも成功している。

クリエイターと製造企業とのマッチングにより、商品開発、試作品製作費、販路開拓費などの経費の一部が補助される。

伝統工芸品等が新たな価値を持った商品として生まれ変わり、地場産業の活性化につながっている。

上田市はモノづくりもまちとしての優位性を構築するため、地域ブランド化の多様性や外部人材の活用、高い技術力を生かしていきたい。

* 視察先の写真等がある場合は添付のこと

平成29年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	公明党	
事 業 名	先進地視察 「自殺対策とSOSの出し方教育について」	
事 業 区 分	①研究研修	②調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

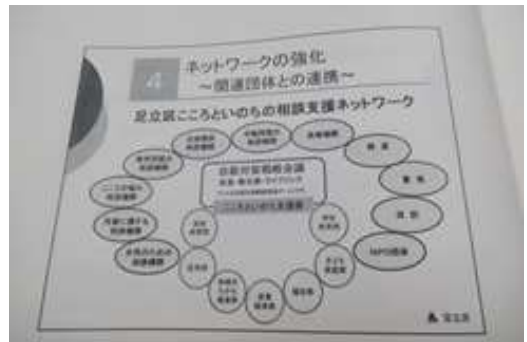
自殺対策への取り組みにおいて、国内の地方自治体のモデルとなっている足立区で実施されている自殺対策と小・中学、高校で行われている「SOSの出し方教育」について、今後、上田市でも実施できるよう調査研究を行う。

2 実施概要

	実施日時	視察先	東京都 足立区
	平成29年8月9日 14:00~16:00	担当部局	衛生部 ころとからだの健康づくり課
報 告 内 容	<p>1 区の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人口：670,122人 ○面積：53.25k㎡ ○財政力指数：0.34 ○産業別構成比：第一次産業0.21%、第二次産業18.15%、第三次産業66.41% <p>2 区の特徴</p> <p>「ツナガル ツクル カガヤク ミライ」… 治安、学力、健康、貧困の連鎖を断ち切ること、刑法認知犯件数都内ワーストワンからの脱却を目指し、子どもの貧困対策、自殺対策などで成果を上げている。</p> <p>3 視察事項について</p> <p>《視察項目と内容》</p> <p>「自殺の実態と生きる支援の取り組み」</p> <p>(1) きっかけとなった3つの数字</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「1位」 … 平成18年に区内自殺者数が都内ワースト1位となる。 ○「1,616人」 … 10年間の自殺で失われた命、区内町会が1つが消滅することに匹敵する人数である。 ○「72%」 … 亡くなる前に約72%の人が何らかの相談機関に訪問している。 		

(2) 足立区が目指す都市型対策モデル

… 法律専門家、消費者センター、ハローワーク、保健センター、福祉事務所、就労支援課が連携し対応し解決を目指す。



(3) 取り組みの4つの柱

① 人材育成

… ゲートキーパー研修（初級・中級・上級）

受講生：職員 5,136 人、区民・関係機関 6,425 人

② 当事者に対する支援策 … 対面型相談支援事業、40歳前健診、遺族支援

③ 区民への啓発・周知

- … ・ 図書館パネル展示、啓発グッズ配布
- ・ チラシ、ポスター、バス車内への掲示
- ・ 女性向け啓発カード作成・配布
- ・ 「いじめ対策と連動した自殺予防」

… SOSの出し方教育

④ ネットワークの強化、関係団体との連携

- … ・ 足立区こころといのちの相談支援ネットワーク
- ・ 「つなぐ」シートで一步踏み込んだ連携
- ・ 寄り添い支援事業
- ・ 足立区自殺未遂者支援



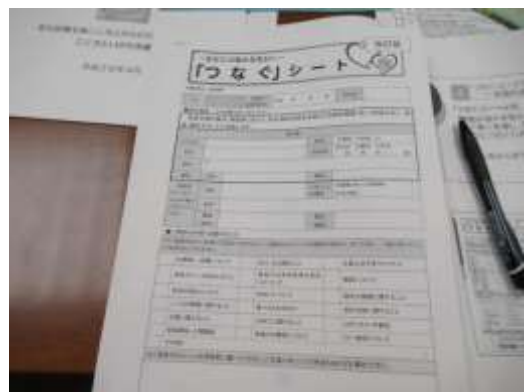
(啓発グッズ)

4 注目点

SOSを受け止め、つなぐために

(1) 相談支援ネットワークと「つなぐ」シート

あらゆる関係機関が連携しネットワークをもつことで、複数の悩み抱えている相談者がさまざまな窓口で相談を受けた情報を適切な相談窓口につなげることができる。そのツールとして相談シート「つなぐ」を活用している。



(2) SOSの出し方教育

特別授業「自分を大切にしよう」

小中学校、高校において、教員ではなく区の担当保健師が行っている。

授業「ここまで生き抜いてきたあなたは、大切な人だから、困った時は信頼できる大人に相談しよう」を実施。

5 まとめ、上田市への提案

残念ながら若年の死亡原因の1位が自死であること。

県内10代後半から40代を対象に2,000人が回答した命を守るアンケート結果から、自殺を思い立った時が小中学校、高校時代と全国結果とは違うことがわかった。

このことを踏まえて、以下について上田市に提案していきたい。

- (1) 上田市の関係部門、健康、福祉、教育部門の連携を強化すること。
- (2) 小中学校で「SOSの出し方教育」を実施すること。
- (3) 命を大切するための啓発活動を行うこと。